

自動車部品生産システム展見学参加報告書

実習工場班 内野 拓・中川 秀則

1. はじめに

2006 自動車部品生産システム展が 6 月 14 日(水)~17 日(土)に東京ビッグサイトで日刊工業新聞社主催のもと開催され、16 日(金)に参加したので報告します。

2. 概要

自動車関連産業はわが国の産業の中核的役割を果たし、景気高揚の牽引的役割を期待されています。自動車部品はグローバル化著しい自動車の技術革新を支える重要な役割を担っており、その製造技術は高品質、高精度、高機能、環境対策などの実現に向け大きく前進し、国際競争力で優位に立っていることを裏付けている。

新興市場 BRICs での生産需要、部品のモジュール化、インテリジェント化、世界的な環境意識の高まりと安全性能の向上への対応などが急務となっており、こういったさまざまなソリューションに対応するためには、優れた自動車部品製造機器・システムの存在が欠かせない。自動車部品産業を取り巻く環境変化の中で、自動車産業の競争力をより強固にしていく場として、「2006 自動車部品生産システム展」が開催された。

3. 内容

約 200 の自動車製造に関わる企業が技術・製品開発等を展示紹介しており、見学情報収集と企業の方との情報交換を行った。

具体的出展内容としては大企業はハイブリット,環境対応,安全装備などが中心の出展となっており、製造分野では小型部品の精度,生産システムなど中心の出展であった。

4. 所感

部品製造メーカーは洗浄機器や生産システム,省力化などの出展が割合多く感じられた。ハイブリッドや環境対応の分野でもう少し多くの大企業が出展しているかと期待したが、2005 年と比較すると停滞感があった。そんな中でもホンダの二輪車対応エアバックは新鮮であった。最新の機械とその製造技術に触れ情報を得られたことは今後の業務においても知識として活用できる可能性もあり非常に有意義であった。